

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会主催

第14回思春期医学臨床講習会報告書

開催日時：2019年6月9日（日）9：30～16：45

開催場所：CIVI研修センター新大阪東

（所在地）大阪市東淀川区東中島1丁目19番4号

参加費：医師5,000円、非医師3,000円

参加者数：135名

第14回思春期医学臨床講習会に参加された133名の受講者の内訳は95名が小児科医、12名がその他医師、12名が看護・心理職、医師91%、非医師9%であった。医師受講者の年代は20～30代が18%、40代が18%、50代が28%、60代が18%で、初回参加者は66%であった。開催場所に関しては9割の方が適切であるとの回答を得た。

今回の講習会テーマは“思春期の健康を守るためにどのように診察したらいいのか？”をテーマに、前半は思春期ヘルス・スーパービジョンと心身症の診療、後半は、話題となっているスマホ依存、睡眠の問題、さらに性の問題を取り上げ2部構成とした。第1部は阪下和美先生が「思春期のヘルス・スーパービジョン」と題し、日本ではまだ標準とされていない思春期健診の考え方について解説した。村上佳津美先生、岡田あゆみ先生は、小児心身症の診断と特に起立性調節障害の診察法について具体的に概説した。第2部では、樋口進先生は日本のゲーム依存がほぼ100%オンラインゲームによるものであること、治療には王道はなく、患者をよく理解すること、家族支援も含め長期にわたる支援が必要であることを概説した。神山潤先生は、子どもの睡眠パターンやその問題点について概説した。最後に、種部恭子先生は、性の問題を取り上げ、性感染症の予防、避妊、性教育の問題、若年の妊娠などの社会的な問題に関し講義した。今回の研修では、思春期の健康も守るために、よく外来で遭遇する不定愁訴（心身症の診療）、ゲーム依存、睡眠の問題、そして小児科医の立場では入りこむことが難しいと思われる性の問題を学ぶことができたと考える。

参加者からのアンケートでは、本講習会は小児科学会HPから知ったが最も多かった。講演のテーマ、内容等に関しては、ほとんどがとても興味深かったと高い評価を得た。これまで講習会に参加したことなかったものが60%、今後も参加したいが80%以上であり、繰り返し参加されることが期待された。意見として、テキストと当日のスライドに相違ある、との指摘があり、できるだけ演者には当日の講義に沿った資料作りを依頼する必要があると考えられた。今後取り上げて欲しいテーマとして、思春期外来の具体的な診療技能、触法行為と支援システム、薬物療法（不安障害、うつ）、ひきこもり、摂食障害、性教育、その他、同様の内容で良いので多くの人が受講できる機会があると良い、など様々な要望があった。

今後当講習会での課題として検討を願いたい。

文責 作田亮一